

北海道支部ニュース第45号

日本分析化学会 北海道支部 2012 年 8 月

支部長挨拶

日本分析化学会北海道支部長
森田みゆき
(北海道教育大学札幌校)



本年度の日本分析化学会北海道支部長を仰せつかりました。何故私がという疑問は、当の本人よりも支部会員の皆様の方が大きいと思います。しかし、後ろ向きでは支部の発展にマイナスですので、前向きに行きたいと思います。

私が本支部会の活躍を知りましたのは、道外で学生生活を送っているときでした。分析化学は専門ではありませんでしたが、実験研究では当然のことながら分析化学は重要ですので、当時、本支部会発行の「水の分析」で勉強させていただきました。本を見ましたら、「日本分析化学会北海道支部」とあり、私は元々は北海道出身ですので、北海道支部ではこのようなこともしているのだと、印象に残りました。その後、縁あって北海道教育大学に奉職し、同大学の那須先生をはじめとして、北海道支部の先生方に、今日まで30年弱ご指導を賜っています。

定年まで残すところ数年となりましたので、この後は、少しでもご恩返しをしなければな

らないと考えております。長くなりましたが、そういう覚悟で支部長をお引き受けした次第です。

さて、前大澤支部長から準備されていた来年度の分析化学討論会が今年度の重要な事項だと思われます。板橋実行委員長を中心に着実に一步を踏み出しました。東北に最も近い函館の地で、東北の震災復興を支援するテーマで討論会を開催できることは、非常に意義あることと思います。討論会に向けて今年度はその準備となります。討論会の成功のためにも、分析化学会の果たす役割を認識しつつ、分析化学の重要性の一層の啓蒙と会員の増強に力を入れたいと思います。

先日、2012 年度第 1 回本部支部連絡会議に出席いたしました。会議の中で、共通課題として、会員増強問題(特に若手減少)、財政問題でした。情報交換の場として、本部支部連絡会議の活用をとのご意見もありまし

た。また、法人化したので、業務執行機関としての支部の役割も指摘されました。今後検討されるようです。財政問題については、収益事業として各企業からの要望を取り入れた講習会の開催の必要性が指摘されました。また、某大学では50名もの技術職員の方々を中心に講師になっていただき講習会を開催した事例が紹介されました。北海道支部は独自の活動で実績がありますが、各支部の独創的な活動をされていることを知り、大変勉強になりました。

いろいろな支部活動が考えられますが、それを支えるのは、支部会員です。まずは、若手を中心とした支部会員の入会、そして、

企業を中心とした業界の支部会員の入会を増やすことにつけると実感いたしました。特に、私のように分析化学出身でない大学関係者、研究所関係者、業界の方々に分析化学の意義を知っていただくことだと思い至りました。

気がつけば、任期は来年2月一杯ということで、1/3 を無策で過ごしてしまいましたが、残りは上記のことを心に留めて仕事をしてまいりたいと思います。

皆様のご協力よろしくお願いいたします。

(もりた・みゆき)

これまでの終了行事報告



第47回氷雪セミナー・かんぽの宿(小樽)

第47回氷雪セミナー:年初めの恒例行事である氷雪セミナーが、2012年1月7日(土)・8日(日)の両日に、かんぽの宿小樽(小樽市朝里川温泉)において、30名の参加者で開催されました。講演題目は、「物理エンジン

によるロボット制御とシミュレーション」竹澤聡先生(北海道工業大学創生工学部)、「クスの宅急便 ドラッグデリバリーシステム」丁野純男先生(北海道薬科大学)、「薬用植物って漢方薬??—抗癌剤から健康食品まで

一」山下 浩先生(北海道薬科大学)、「ダイナミックな過程としての DNA 損傷修復」林正信先生(酪農学園大学獣医学部)でした。身近な話題であったこともあり、活発な討論がありました。また、懇親会においても、講師の先生方を囲んでの和やかな宴となり、親睦を深めることができました。

(北海道薬科大学・伊藤慎二)

化学系学協会北海道支部 2012 年冬季研究発表会:

化学系学協会北海道支部 2012 年冬季研究発表会(共催:日本分析化学会・日本化学会・触媒学会・電気化学会・腐食防食協会・表面技術協会・石油学会の各北海道支部)が、2012 年 1 月 31 日(火)・2 月 1 日(水)の両日、北海道大学学術交流会館で開催されました。184 件の一般講演(口頭発表 117 件およびポスター発表 67 件)と 1 件の特別講演が行われ、活発な質疑応答や議論がありました。特別講演には、2010 年ノーベル化学賞を受賞された鈴木章先生(北海道大学名誉教授)をお招きし、「ノーベル化学賞を受賞して」と題してご講演いただきました。ノーベル賞の受賞につながったご研究だけでなく、授賞式のエピソードや過去

に冬季研で講演されたときのお話なども紹介されました。また、学生の講演に対して優秀講演賞が選定され(口頭発表 8 件、ポスター発表 5 件)、後日受賞者に賞状が送られました。参加登録者数は 454 名(一般 133 名、学生 321 名)でした。1 月 31 日(火)の 18 時から、北海道大学ファカルティハウス「エンレイソウ」レストランエルムにて懇親会が開催されました。鈴木先生を含めた 65 名が参加し、大変盛況な会となりました。

(北大大学院工学研究院・谷 博文)

第 28 回緑陰セミナー:2012 年 6 月 30 日(土)・7 月 1 日(日)の両日、ニューサイドホテル雪の屋(旭川市)において、第 28 回緑陰セミナーが開催されました。本年度は九州支部より招待講演者の神崎亮先生(鹿大院理工)と浜瀬健司先生(九大院薬)の他、上田祐生君(佐賀大院工、M1)、大山翼君(九大院薬、D1)の 2 名の学生参加が加わり、参加者数は総勢 55 名(男性 41 名、女性 14 名)でした。第 1 日目に、鹿児島大学の神崎亮先生が「イオン液体中における pH と酸塩基反応」、滋賀県立大学の三宅隆之先生が「氷が語る 70 万年の地球環境変動-南極ド



化学系学協会北海道支部 2012 年冬季研究発表会・北海道大学



第28回緑陰セミナー・ニューサイドホテル雪の屋(旭川)

ームふじ氷床コアによる気候・環境変動復元」、九州大学の浜瀬健司先生が「D-アミノ酸の二次元キラル HPLC 分析を基盤とする創薬・診断の展開」、第2日目に株式会社フロンティア研究所の加藤美穂子先生が「イムノアフィニティーカラムを用いた食品分析への応用」、酪農学園大学の岩野英知先生が「胎仔期の化学物質暴露により引き起こされる次世代影響機序解明に向けて」の計5件の招待講演が行われ、活発な議論や意

見交換が行われました。また、第1日目の夕方にはポスター発表(発表数14件)も行われました。参加者による投票の結果、阿部礼佳君(北大院工)、上田祐生君(佐賀大院工)、大山翼君(九大院薬)の3名が優秀ポスター賞に選出され表彰されました。本セミナーの開催にあたり、ご協力とご理解を賜りました分析化学会北海道支部ならびに九州支部に深く感謝申し上げます。

(酪農大・中谷暢丈)



これからの行事予定

2012年夏季研究発表会: 来る8月4日(土)、旭川工業高等専門学校(旭川市春光台2条2丁目1-6)において、北海道支部2012年夏季研究発表会が開催されます。一般講演は120件、また特別講演として、塚本 尚義先生(北海道大学 大学院理学研究院 教授)による「はやぶさによるサンプルリターン

により明らかになった小惑星の正体」、および玉尾皓平先生(日本化学会会長・理化学研究所基幹研究所所長)による「拡大・深化を続ける機能性有機元素化学」の2件が予定されております。皆様のご参加をお待ちしております。

(旭川工業高等専門学校・古崎 睦)

北海道支部公開セミナー:来る9月7日(金)13時30分より、苫小牧工業高等専門学校中講義室(苫小牧市字錦岡443)において、公開セミナーが開催されます。苫小牧工業高等専門学校の岩波俊介先生が「南極観測-地球の動き-」、北海道教育大学教育学部札幌校の尾関俊浩先生が「雪氷のいろいろな現象を観測する -ミクロからマクロまで-」と題して講演されます。参加費無料、事前登録は不要です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

(苫小牧高専・藤井清志)

第73回分析化学討論会:日本分析化学会「第73回分析化学討論会」が、2013年5月18日(土)、19日(日)の両日、北海道大学函館キャンパス(水産学部)で開催されま

す。北海道支部では、幹事を中心に実行委員会を組織し、準備を進めています。

討論会では、一般講演(口頭、ポスター)の他、主題講演、テクノレビュー講演、依頼講演、若手シンポジウム、論文賞受賞講演、機器展示、懇親会等が行われます。討論主題は以下の3つを予定しています。

- (1)3.11から考える分析化学 ―復興・研究・教育―
- (2)宇宙と生命の謎に迫る ―分析化学の挑戦―
- (3)マリンサイエンス ―分析化学からのアプローチ―

なお、懇親会は5月18日夕方、五島軒本店(函館市末広町4-5)で行います。函館では初めての討論会開催となります。

会員の皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

実行委員長 板橋 豊
(北大大学院水産科学研究院)



第73回分析化学討論会のポスター



2012 CALENDAR

開催日	事業名	開催地	担当幹事
【2012 年】 9 月上旬	2012 年度役員候補者選考委員会	札幌	藤井清志
9 月 7 日(金)	2012 年度公開セミナー	苫小牧	
10 月下旬	第 2 回幹事会	札幌	
11 月予定	北海道地区化学教育研究協議会	札幌	豊田和弘
11 月中旬予定	2013 年度学会賞等受賞候補者推薦及び 2012 年度北海道分析化学各賞受賞者 選考委員会	札幌	中谷暢丈 富田恵一
12 月	支部ニュース第 46 号		
【2013 年】 1 月上旬予定	第 48 回氷雪セミナー	未定	福嶋正巳
2 月初旬予定	化学系学協会北海道支部 2013 年冬季研究発表会(2012 年度北海道分析化学各賞授賞式)	札幌	谷 博文
2 月下旬予定	審議会(第3回幹事会)	札幌	



2012年度支部役員

支部長	森田 みゆき	北海道教育大札幌校
副支部長	黒澤 隆夫	北海道医療大学
	宇都 正幸	北見工業大学
庶務幹事	叶 深	北大触媒化学研究センター
	蠣崎 悌司	北海道教育大札幌校
会計幹事	石田 晃彦	北大大学院工学研究院
	佐々木胤則	北海道教育大札幌校
監査	伊藤 八十男	北海道立衛生研究所
	大澤 雅俊	北大触媒化学研究センター
他	参与 21 名 幹事 49 名	
事務局	〒002-8502 札幌市北区あいの里 5 条 3 丁目 1 北海道教育大学札幌校 公益社団法人日本分析化学会北海道支部 支部長 森田 みゆき TEL:011-778-0402 FAX:011-778-0428 E-mail:jsac-hb@w9.dion.ne.jp	

2011年度北海道支部会計報告の概要

支 出		収 入	
会議費	156,056	支部費補助金	901,200
講演会費	10,000	学会賞推薦委員会	10,000
研究発表会費	280,000	印税収入	279,770
セミナー費	495,000	受取利息	532
書籍出版費(印税)	63,815	次年度繰入金	374,360
書籍編集費	30,080		
北海道分析化学賞等経費	141,262		
学会賞推薦委員会費	6,250		
通信運搬費	58,125		
事務・消耗品費	18,078		
旅費交通費	24,660		
印刷費	33,000		
HP 管理費	9,536		
事務委託費	240,000		
支出合計	1,565,862	収入合計	1,565,862

支部会員の欄

この欄では分析化学会北海道支部の転入や転出、新入会など会員に関する情報をお伝えします。次の方々の入会が認められた(「ぶんせき」2012年1月号～6月号の会報欄掲載分)ほか、転入及び退会の情報をお寄せいただきました。会員に関する情報をお持ちの方は、支部ニュース編集委員までお知らせください。



新入会のみなさん(敬称略、順不同)

佐藤克行 ((株)浅井ゲルマニウム研究所)

白鳥聖也 (酪農大院酪農)

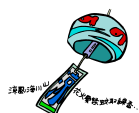
白幡和也 (酪農大院酪農)

西村綾乃 (酪農大環シス)

佐藤 久 (北大院工)

菅藤亮輔 (北大院工)

宮崎悠爾 (北大院工)



編集後記

支部ニュース第45号をお届けいたします。この度ご執筆頂きました森田支部長をはじめ執筆者の皆様には、この場を借りまして厚くお礼申し上げます。今回の支部ニュースを編集したちょうど同じ頃、私自身緑陰セミナーの実行委員として初めて開催運営に携わっておりましたが、企業・研究所等からの参加者がほとんどおられない状況でした。

このことから、支部長からのご挨拶にもあるように、会員数の減少が懸念されている状況にある中、大学関係者や研究所関係者に加え、業界の支部会員を増やすことが重要であることを実感いたしました。

この支部ニュースも、支部の活動を道内外に広くアピールすることで、会員間の情報交換や結びつきを強めるネットワークづくりに加え、関心を持たれた方の新規入会の一助になれば幸いに存じます。

(編集委員:中谷 暢丈、富田 恵一)

北海道支部ニュース第45号
日本分析化学会 北海道支部

〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目1
北海道教育大学札幌校
日本分析化学会北海道支部 支部長 森田 みゆき
TEL:011-778-0402/FAX:011-778-0428
E-mail: jsac-hb@w9.dion.ne.jp

◆ 編集 日本分析化学会北海道支部
発行

◆ 発行日 2012.8.1

